専門ゼミナールを振り返っての考えと現在の自分について

庭　田　一　美

私は、中村敦志先生のご指導の下、専門ゼミナールで、アメリカ文学をいくつか研究しました。私達のゼミナールは、男性が¼程で、ほとんどが女性ということで、静かな雰囲気で、授業が進行していったように思います。

私達は、まず初めに、『ティファニーで朝食を』を取り上げ、その原文の本と吹き替え無しの映画のビデオを使って、その内容を研究していきました。そして、原文と映画とは、ほとんど大意は一致していたと思いますが、少しSituationが、異っていたり、表現方法が、違っていたりして、非常に、興味が持てたと思います。

この小説について、私達は、細かい内容の部分まで、くわしく研究したので、わりと多くの時間を、これに費やしたと思います。

次に私達は、「アルジャーノンに花束を」を題材に研究しました。私は、以前、これを翻訳で、読んだことがあったので、内容は知っていましたが、原文の本を見て、翻訳のものより、文章量が非常に少ないことに、少し驚きました。同時に、日本では、わりとポピュラーなこの題材が、当国アメリカでは、あまり人気ではないことを教わって、驚きました。

この題材を研究している時、私達は、一人ずつ、前回の題材の時よりも多い量の内容をゼミナールの時間までに研究してきたので、わりと進行がスムーズだったように思います。加えて、くわしく内容を、把握することができて良かったと思います。

四年生になってからは、ゼミナールの他には、何も選択していなかったので、ゼミナールは、私にとって貴重な存在だったと思います。もう少しで卒業なのが、とても淋しい感じが、今しています。

次に、現在の自分についてですが、私は今、アメリカのウイスコンシン州に、留学中で、マディソンという町で、小さなEnglish Schoolに通っています。未だ二ケ月程の滞在なので、会話は、あまり上達していませんが、文法やwriting,readingを一から学ぶことができて、非常に価値のある経験をしていると思います。ホームスティもなかなか過ごしやすく、とても楽しく暮らしています。ここウイスコンシン州は、日本人が少ないとは言え、やはり学校には、¼程の日本人がいて、日本語で、会話することもしばしばです。しかし、それは英会話上達には良くないことなので、できるだけ、ネイテイブの人々との会話を多くして、日本に帰るまでには、少しは、英会話が上達するよう努力したいと思っています。そして、日本に帰ってからも、この経験を大切にして、英語の勉強を続けたいと思っています。

（指導教員　中村　敦志）